

## 山笠が市街地を練り歩く

祭りの中で感じた地域の絆  
7月24日から25日にかけて、毎年恒例の前原夏祭りが開催され、9行政区の山笠が市街地を練り歩きました。

例年と違い、今年は、市役所前の「伊都恋い橋」を通るルートで行われ、山笠を昇る勇壮な男衆が市役所の前を通ると、市職員たちが勢い水で応援しました。

山笠には、地元の人のみならず、ホームステイ中のネパールの子どもたちも参加。地域、国境を超えて、みんなで祭りを盛り上げました。



伊都恋い橋を渡る山笠

## 貝のつくりと生態に迫る

志摩歴史資料館に約100種類の貝殻  
7月28日、「不思議な貝のものがたり」と題した九大・糸島会講演会が志摩歴史資料館で開催されました。

資料館では7月16日から9月4日(日)までの間、世界各地の美しい貝や珍しい貝などが展示されており、貝の進化や生態などを分かりやすく紹介しています。

この日、九州大学の松隈明彦先生が来館して、貝がどのような姿勢で生活しているのか、実演を交えながら分かりやすく説明していました。



松隈先生の興味深い話に聞き入る参加者たち

## 戦争体験を次世代へ

### 前原北新地「戦中・戦後を語り継ぐ会」

終戦から66年。戦争を体験していない世代に、戦争の愚かさやむなしさ、悲惨さを伝え、平和について考える「戦中・戦後を語り継ぐ会」。

毎年8月、北新地自治会が主体となり開催しており、7回目となる今回は8月7日、大人81人、小中学生47人が参加して行われました。

戦争体験者・淵田豊さんの「小学校時代の記憶」の話聞いた子どもたちは、「戦争は一瞬で尊い命を奪う。何も良いことはない」と、現代の平和な社会のありがたさを再認識していました。



戦時中の生活の話に聞き入る子どもたち

## 子どもたちの静かなバトル

### 第15回小・中学生将棋大会

小・中学生の健全な育成と将棋文化の普及を目的とする第15回糸島地区小・中学生将棋大会が、8月6日、南風校区公民館で開催されました。毎年プロ棋士を招いて開かれている当大会。今回は西川和宏氏(四段)の指導を受けながら対戦できる機会とあつて、参加した約90人の子どもたちも興奮気味。

十数人の子どもとプロ棋士が対戦する多面指しでは、「もっと良い手があるよ」とアドバイスを受けながら果敢に挑んでいました。



西川プロに指導を受ける子どもたち

## 現状を知り、これからを考える

### 東日本大震災被災地派遣者報告会

東日本大震災発生から5か月。被災地の現状を市民に伝え、今後の糸島市での対応を考える機会とするべく、被災地派遣者たちによる報告会を8月9日に人権センターで行いました。

報告者は、復興支援に携わった市民ボランティア、警察、消防、市役所職員など。現地を感じたことや学んだことなどを熱く訴えかけていました。

詳しい報告などについては、今後の広報やホームページで随時掲載していきます。



会場には300人を超える人たちが集まった

## 暑さに負けない熱い試合

### 第2回糸島市体育大会

毎年、夏の恒例行事「糸島市体育大会」の総会開会式が、8月7日に前原小学校の体育館で開催されました。

糸島市体育協会の幸田敏身会長は「各々の競技の良さを生かし、大会を盛り上げて欲しい」とあいさつを述べました。今大会からは、新しくボウリングの競技が加わり、全21種目の白熱した試合が繰り広げられました。

糸島市には全国レベルの選手もたくさんおり、今後の活躍が期待されます。



バドミントン協会 中野智貴君(西中2年生)による選手宣誓